



薬局ヒヤリ・ハット事例収集・分析事業 共有すべき事例

2026年
No.3
事例3

疑義照会・処方医への情報提供

配合変化



事例

【事例の詳細】

眼科から患者に、オゼックス点眼液0.3%とプロナック点眼液0.1%が処方された。オゼックス点眼液0.3%とプロナック点眼液0.1%は、併用により配合変化を起こす可能性があるため、薬剤師は処方医へ疑義照会を行った。その結果、プロナック点眼液0.1%が削除になった。

【推定される要因】

オゼックス点眼液0.3%は配合変化を起こしやすい薬剤であるが、処方医はプロナック点眼液0.1%と配合変化を起こすことを把握していなかった可能性がある。

【薬局での取り組み】

点眼液には配合変化を起こす組み合わせがあることに注意して処方監査を行う。



その他の情報

オゼックス点眼液0.3%の添付文書 2024年5月 改訂（第2版）（一部抜粋）

14.適用上の注意

14.1 薬剤投与時の注意

原則として配合変化が認められる点眼液との併用は避けること。

主な点眼液との配合変化（本剤1mLと配合薬剤1mLをガラス管に入れ、ミキサーで10秒間混合し、外観変化を観察）は下表のとおりであった。

配合変化あり ^{*1}	リンデロン点眼・点耳・点鼻液0.1%、ニフラン点眼液0.1%、ジクロード点眼液0.1%、プロナック点眼液0.1%、点眼・点鼻用リンデロンA液、リザベン点眼液0.5%、インタール点眼液2%、タチオン点眼液2%、ミドリンM点眼液0.4%、キサラン点眼液0.005%、チモプトル点眼液0.25%、チモプトルXE点眼液0.5%、トルソプト点眼液1%、ミケラン点眼液2%、リズモンTG点眼液0.5%、フラビタン点眼液0.05%、レスキュラ点眼液0.12% ^{*2}
----------------------	--

※1: 混合直後または室温で1時間放置後に外観変化（白濁）が認められたもの。白濁は、本剤の溶解機構であるトスフロキサシンとアルミニウムイオンのキレート平衡が、他の点眼液中のエド酸、クエン酸、リン酸などにより影響を受け、有効成分が析出するためと推測された。

※2: 本剤2mLと配合薬剤2mLをガラス管に入れ、ミキサーで10秒間混合し、外観変化を観察



事例のポイント

- オゼックス点眼液0.3%は、他の点眼液と併用した場合に、有効成分であるトスフロキサシンの溶解度が低下し、白濁や結晶析出といった配合変化を起こす可能性がある。
- 配合変化により眼内でオゼックス点眼液0.3%の白濁・結晶化が起きた場合、薬効の減弱のみならず、不溶性粒子による眼刺激、異物感、角膜損傷などを招くおそれがある。オゼックス点眼液0.3%が処方された際には、患者に配合変化を起こす可能性のある点眼液が処方されていないか、患者がすでにそれらの点眼液を使用していないかを確認する必要がある。
- 処方医は疾患の治療に注力し、製剤の配合変化については考慮できていないこともある。薬剤師は製剤学的知見に基づき、薬理作用だけでなく物理化学的な配合変化にも着目した処方監査を行うことが重要である。



公益財団法人 日本医療機能評価機構
医療事故防止事業部

〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町1-4-17 東洋ビル
電話：03-5217-0281（直通） FAX：03-5217-0253（直通）
<https://www.yakkyoku-hiyari.jcqh.or.jp/>

※この情報の作成にあたり、作成時における正確性については万全を期しておりますが、その内容を将来にわたり保証するものではありません。※この情報は、医療従事者の裁量を制限したり、医療従事者に義務や責任を課す目的で作成されたものではありません。※この情報の作成にあたり、薬局から報告された事例の内容等について、読みやすくするため文章の一部を修正することがあります。そのため、「事例検索」で閲覧できる事例の内容等と表現が異なる場合がありますのでご注意ください。